

図1 一般会計の歳入・歳出



※ [] は前年比 ※歳出の各項目には、関係する職員の給与費を含めています

平成26年度の決算額は、歳入が862億599万円、歳出が853億5553万円、差引額が8億5046万円でした。(図1)

この差引額には、平成26年度中に事業が完了しなかったため、平成27年度に繰り越した事業の財源42万円も含まれていて、これを除いた実質的な黒字額は、8億50

04万円でした。(表1)

平成25年度と比較して、市税が約4億6000万円、消防救急無線デジタル化事業受託料などで諸収入が約21億7000万円、除雪費用の補正財源とするための基金取り崩しなどで繰入金(図1)では「その他」(含む)が約10億円増加しました。

一方で、地方交付税が約1億8

000万円減少したほか、地域介護・福祉空間整備費の国庫補助金への歳入組み替えなどにより道支出金が約2億1000万円減少しましたが、歳入全体では、約49億円の増加となりました。(図1)

平成25年度と比較して、消防救急無線デジタル化整備事業などで消防費が約19億7000万円、臨時福祉給付金の支給や障害者自立

一般会計の収支

歳入の状況

04万円でした。(表1)

問い合わせ

財政課 (市庁舎5階、☎65・4106)

決算は9月24日から開催の定例市議会で審議されています。水道事業会計と下水道事業会計の平成26年度決算は、9頁でお知らせします。



決算と財政状況
平成26年度の各会計決算と主な取り組み



表1 一般会計と特別会計の決算

会計区分	歳入	歳出	翌年度繰越事業財源	実質収支	
一般会計	862億599万円	853億5553万円	42万円	8億5004万円	
特別会計	国民健康保険会計	185億4565万円	183億1396万円		2億3169万円
	後期高齢者医療会計	20億7241万円	19億9872万円		7369万円
	介護保険会計	125億2065万円	122億6015万円	825万円	2億5225万円
	中島霊園事業会計	5757万円	5757万円		
	簡易水道事業会計	7084万円	7084万円		
	農村下水道事業会計	1億690万円	1億690万円		
	ばんえい競馬会計	138億5536万円	137億8683万円		6853万円
	駐車場事業会計	9916万円	9916万円		
	空港事業会計	5億3189万円	5億3189万円		
	合計	1340億6642万円	1325億8155万円	867万円	14億7620万円

市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険会計や介護保険会計など9つの特別会計があります。

特別会計は、利用者が負担する保険料や使用料などが主な財源で、収入と支出の関係を明確にするため、一般会計と区分して経理を行っています。特別会計の決算額は、表1のとおりです。

特別会計の収支

支援給付費の増加などで民生費が約11億7000万円増加しました。一方で、市債の返済などに充てる公債費が約2億9000万円減少しましたが、歳出全体では、約50億5000万円の増加となりました。(図1)

平成26年度に新たに実施した主な施策

「第六期常広市総合計画」の体系に基づき一部を紹介します。

「安全に暮らせるまち」を
目指した取り組み

▼消防広域化に伴う高機能指令センター整備に向けた詳細設計▼高規格救急自動車の更新—など



▼消防救急無線のデジタル化に向けた無線機器などの整備

「活力あふれるまち」を
目指した取り組み

▼畜産物加工研修センターの設備更新▼平成25年10月の降雪により被災した森林、林道の復旧▼帯広競馬場「ふれあい動物園」の整備



▶開広団地再整備事業に対する支援

「健康でやすらぐまち」を
目指した取り組み

▼第2回全国健康都市めぐりの開催▼水痘ワクチン・成人用肺炎球菌ワクチン予防接種の実施▼子ども・子育て支援事業計画の策定▼民間保育士の処遇改善に対する支援▼児童保育センターの整備▼児童会館開館50周年記念事業の実施—など



▶児童会館開館50周年にあわせた科学展示品のリニューアル

▼海外バイヤー招聘などを通じたビジネスマッチング事業に対する支援▼プロモーションビデオによる首都圏イメージアップ事業の実施▼丸の内タニタ食堂での「十勝ウィーク」の開催



▶第33回国際農業機械展の開催に対する支援

帯広市の財政状況

自治体の財政状況を表す資料に、健全化判断比率と財務諸表があります。

健全化判断比率が示す

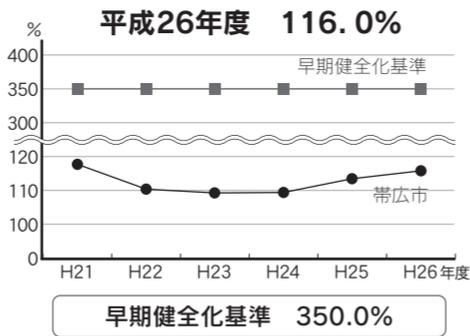
財政の健全さ

自治体全体の財政状況を把握し明らかにするため、財政健全化法による4つの指標の公表が各自治体に義務付けられています。

・実質赤字比率と連結実質赤字比率

普通会計（※1）の実質的な赤字額が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示す指標が実質赤字比率です。これに、特別会計や企業会計も含めた指標が連結実質赤字比率です。いずれも、平成26年度は黒字です。

将来負担比率の推移



実質公債費比率の推移

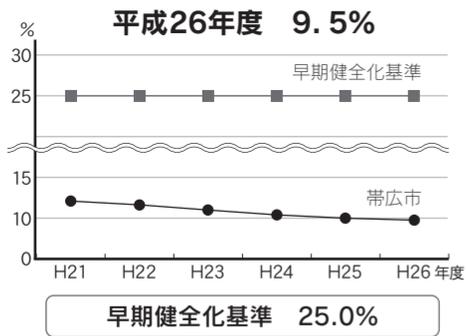


表2 平成25年度帯広市普通会計財務諸表

貸借対照表(バランスシート)……市が所有している施設などの資産価値やこれから返済しなければならない地方債などの負債、すでに返済を終えた純資産がどの程度あるか表したものの

資産の部(年度末に所有している資産の価値)		負債の部(これから返済していく金額)		
平成25年度		平成25年度		
1 金融資産	(1) 資金	9億9504万円	1 流動負債	
	(2) 債権 未収金、貸付金など	23億7653万円	(1) 賞与引当金	5億1466万円
	(3) 有価証券	2億7483万円	(2) 地方債(短期)等 翌年度償還予定地方債など	81億7179万円
	(4) 投資等 出資金、基金・積立金など	171億2624万円	2 非流動負債	
2 非金融資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育施設、 市営住宅など	1326億4279万円	(1) 地方債 翌々年度以降償還予定地方債	885億3848万円
	(2) インフラ資産 道路、公園など	2129億6402万円	(2) 借入金	2691万円
負債合計		1084億6045万円	(3) 引当金等 退職手当引当金など	112億861万円
純資産の部(これまでに返済を終えた金額)		純資産合計		2579億1900万円
資産合計		3663億7945万円	負債・純資産合計	3663億7945万円

市民一人当たり換算(平成25年度末の住民基本台帳人口で換算)

資産の部		負債の部	
平成25年度		平成25年度	
資金	5900円	流動負債	5万1511円
債権	1万4093円	非流動負債	59万1660円
有価証券	1630円	負債合計	64万3171円
投資等	10万1559円	純資産の部	平成25年度
非金融資産	204万9449円	純資産	152万9460円
資産合計	217万2631円	負債・純資産合計	217万2631円
年度末人口	16万8634人		

・実質公債費比率と将来負担比率

実質公債費比率は、一般会計などが負担する長期の借入金の返済や、それに準ずる支出が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示す指標です(過去3カ年平均)。家計に例えると、住宅ローンなどの返済額の合計が年収に占める割合になります。(図2)

将来負担比率は、一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示す指標です。家計に例えると、住宅ローンなどの借入金の残高が、現在の年収の何%になるかを示す割合になります。(図2)

市の平成26年度の財政状況はいずれも早期健全化基準(※2)を下回っています。

※1 普通会計

全国の自治体の財政状況を比較するための会計の基準です。帯広市では一般会計に中島霊園事業会計と空港事業会計を加えたもので

※2 早期健全化基準

財政破綻を防止するために設けられた危険水準を表したものです。4つの健全化判断比率のうち一つでも基準値を上回ると、計画を策定し財政の健全化に取り組みなければなりません。

企業会計の視点から見た帯広市財政

現行の現金主義による会計処理を補完するため、民間の企業会計に基づいた「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の4つの

財務諸表を1年遅れで作成しています。

財務諸表では、公正な評価による資産や負債の蓄積状況のほか、減価償却費など実際に現金の支出を伴わない隠れたコストも把握し、表示することができます。

貸借対照表から見た

財政状況

4つの財務諸表のうち、バランスシートと呼ばれる貸借対照表を見ると、市が所有している施設などの資産価値や、これから返済しなければならぬ地方債などの負債がどのくらいあるのかが分かります。(表2)

市民1人当たりで換算すると、資産は約217万円、負債は約64万円、純資産は約153万円となっています。

財務諸表は、市のホームページなどでも公表しますので、ぜひご確認ください。

これからの帯広市の財政

帯広市の財政は、健全化判断比率や資産に占める純資産の割合などからみて、健全な状況を維持しています。

しかし、高齢化の進行などに伴い、社会保障にかかる費用が増加しているほか、多くの公共施設が更新や大規模改修が必要となる時期を迎える一方、国からの交付税などは減少していることから、今後も厳しい財政運営が続くことが予想されます。

これからの、限られた財源のなかで、将来にわたって安心して住み続けられる持続可能なまちづくりに向けて、効果的に各種施策に取り組んでいきます。

▼フードバレーとかち食彩祭の開催に対する支援▼漫画「銀の匙 Silver Spoon」とタイアップした十勝を周遊するスタンプラリーの実施—など



▶フードバレーとかちロゴマークを活用した飲食店フェアの開催

ちづくり事業の実施▼新たな総合体育館整備に向けて基本計画の策定—など



▶学校給食に地元産食材の活用推進

「思いやりとふれあいのまち」を
目指した取り組み

▼児童保育センター併設型コミュニティ施設耐震化▼産業文化姉妹都市徳島市阿波おどり親善訪問の受け入れ—など

「自然と共生するまち」を
目指した取り組み

▼旧六中グラウンド跡地での、ゼロエネルギー住宅建築に対する支援▼道路車両センターにB5(BDF5%混合軽油)簡易給油機の設置▼帯広の森造成40周年記念事業の実施—など

「快適で住みよいまち」を
目指した取り組み

▼中島霊園合同納骨塚の整備▼小学校低学年向け交通環境学習講座プログラムの構築▼第9回日本モビリティ・マネジメント会議の開催に対する支援▼とかち帯広空港の滑走路などの改良に向けた耐震性調査—など

「生涯にわたる学びのまち」を
目指した取り組み

▼帯広第四中学校校舎温水ボイラの更新▼学校トイレの洋式化▼学校給食センターの整備▼小中学校に牛乳用保冷庫の設置▼帯広畜産大学との共同による馬のいるま



▶国際姉妹都市締結45周年を記念し、スワード市で共同制作した壁画

「自立と協働のまち」を
目指した取り組み

▼「マイナンバー制度」(社会保障・番号制度)の導入に向けたシステム改修▼「公共施設マネジメント」の導入に向けた講演会の開催や、公共施設などの現状分析—など